

治験依頼者と医療機関をつなぎ

「協働」を実現するデジタルプラットフォーム

Collaboration for Patients

新薬開発の変革には、患者、医療機関、ライフサイエンス企業を始めとするステークホルダーが、お互いの課題を認識し、解決に向けて手を打ち合うことが不可欠です。Patient-centric Clinical Trialsは、新薬開発の課題をブレイクスルーし、一日も早く必要な患者に新薬を届けることを可能にします。

そのアプローチの一つとして、デジタルプラットフォームが、新たなコミュニケーションと情報活用手段を提供し、臨床試験コミュニケーションのDXを実現します。「Collaboration for Patients」をキーワードに、臨床試験に関わる全ての関係者のパフォーマンス向上を支援。患者・治験参加者を中心とした臨床試験の実現に貢献します。



デジタルな「協働」によるオペレーション変革

臨床試験業務のデジタル化が進む中、その要となるコミュニケーションの手段は依然としてメールや電話が中心で、非効率さが課題となっています。治験依頼者にとって現場はブラックボックス化し、対応品質や生産性にばらつきが生じ、CRCも本来の患者対応業務以外に多くの労力を割いています。従来の属人的で断片的なコミュニケーション手段は、情報の分散や追加対応、誤解によるトラブルを招きます。こうした「当たり前」を見直すことが、治験運用の合理化につながります。

関係者だけでなく、業務と情報までを一体化するデジタルな「協働」によりオープンな情報共有とスリムなコミュニケーションが実現し、情報の共通認識化と再現性の高いプロセスへの転換で、臨床試験の効率化と品質確保を両立するオペレーション変革を支援します。

こんな悩み抱えていませんか

治験依頼者

責任者・リーダー

報告でしか現場がわからない
悪い報告は後から知ること

トラブルを予防できず
リカバリーのために急な施設訪問

どこに問題があるのか
原因分析や深掘りに苦労

CRA

初めての質問内容
確認します...時間がかかる

多くの医療機関を担当
どうしても手が回らないことも

他の医療機関の対応が見えない
情報が活かしにくい、学びにくい

医療機関

CRC

急いでいるのに
電話やメールに反応がない

前に送られてきた資料
メールBOXから探すのに苦労

いつものやり方は？
主担当が急なお休み

解決方法と期待効果

「同じプラットフォーム上で一緒に業務を進め、お互いの情報を集めて活かす」
コミュニケーションから、関係者・業務・データを一体化するコラボレーションへ



機能イメージ

対応を蓄積・見える化
チームで円滑に共通認識

情報を逃さず一元管理
迷ったときにはすぐに検索

ToDoが業務をナビゲート
プロセスや結果を関係者間で連携

気になる兆候をピックアップ
早期介入・トラブル未然防止

詳細はこちらまでお問い合わせください

富士通株式会社

E-mail contact-clinical-collaboration@cs.jp.fujitsu.com

